



「10-10-10ツール」

校長 長船 祐介

12月に中央・桜島ブロック家庭教育充実研修会で、本校のPTAが「20-20-20ルール」に取り組んだ成果を発表しました。

「20-20-20ルール」とは、目の健康のために、テレビやスマホ、インターネットなどデジタル画面を20分間続けて見たら、20秒間、20フィート（約6m）以上離れたところを見て目を休めるようにしましょうという約束です。

参加された方からは、シンプルな取組で、無理強いしない取組は子供も親も続けていける。頭痛や目の痛みの割合が減ったり、親子で話す機会が増えたことは素晴らしい成果である、などの感想をいただくことができました。

研修会の中で、東桜島公民館の田中伸一館長に指導助言を頂きました。お話の中で、「10-10-10の意思決定ツール」を教えてくださいました。

「10-10-10ツール」とは、この行動をしたときに、10日後は、10か月後は、10年後はどうなるかを考えて意思決定をするという考え方です。この考え方は、自分の行いが将来に及ぼす影響を考えるよう、子供自身の意識を高めるために大切であると紹介いただきました。

今、良くも悪くもSNSの動画が話題になります。奇をてらった動画を深く考えず投稿している若者がいます。軽いふざけのつもりが事件となり大きな代償を負うものもあります。

もしこの迷惑行為をした人、動画を撮影した人、SNSに投稿した人の一人でも、「10-10-10ツール」を知っている人がいれば、このようなことは起こらなかった、起こってもやめさせることができたと思います。また、過去の迷惑行為が招いたその後のことに関心をもっていたら防ぐことができたかもしれません。

今、若者はスマホの見出しで世の中の出来事を知り、詳しく報じた新聞等を読まないという話を聞いたことがあります。見出しには読む人の関心をひくような出来事が並んでいます。スマホの見出しで、迷惑行為があったことを知ってもそれで満足してしまい、詳しく知ろうとしません。その背景やその後のことは、ほとんど知らないままなのです。自分の投稿したSNSの情報が事件になって、初めて「人々の注目を浴びた出来事」ではなく、単に迷惑な行為であったことを認識するのかもしれませんが。きっと、当事者たちは後悔してもしきれないことでしょう。

「10-10-10ツール」は子供たちにも分かりやすい考え方です。近いうちに、子供たちにも「よく考えて行動しなさい、決めなさい」だけでなく、「その行動をしたときに、10日後のあなたはどうなっていますか。10か月後は、10年後はどうなっていると思いますか。その上でどのように行動するか決めてごらん。」と話をしたいと思います。自分自身で考えて意思決定をして行動できるようになってもらうために、先を見通せる子供になってほしいと願っています。子供だけではありません。私自身もこれから意思決定するとき、このツールを頭において行動したいと思います。

なわとび大会応援ありがとうございます



2月17日（金）なわとび大会が開催されました。自分の目標に向けて努力する子供たちの姿が見られたことと思います。たくさんの応援ありがとうございました。

同日、家庭教育学級・学校保健委員会・全体PTAと保護者の皆様にはご参加・ご協力いただき誠にありがとうございます。

今後とも、東桜島小学校の教育活動のご支援の程よろしく願いたします。

桜島大根収穫・競り市見学・桜島大根贈呈



寒い雪の中、桜島大根の収穫をし、1月27日（金）青果市場に収穫した桜島大根が並べられ「競り市」が始まりました。

子供たちは早起きして自分たちが育てた桜島大根がたくさん売れるように「買って・買って！」と手拍子で応援しました。セリの速さと迫力にびっくりしている様子でした。「うれしかった！売られていくのが」と感想を発表しました。



2月1日（水）には桜島大根の料理教室・市長への桜島大根贈呈を行うことができました。桜島の特産品について大変充実した学習のまとめを行うことができました。

第4回学校運営協議会について



2月10日（金）に第4回学校運営協議会を東桜島中学校で実施しました。1年間の学校経営・運営の反省や学力向上について、来年度の学校経営の方針・学校行事の確認を協議しました。

年4回の学校運営協議会の本年度最後の会でした。コミュニティからも多くの意見が寄せられ充実した会となりました。

3月の主な行事予定

- 1日(水) 授業参観（全学年5校時）全体PTA、学級PTA
- 3日(金) お別れ遠足
- 6日(月) 集金日（～7日）
- いきいき週間（～14日）
- 13日(月) 卒業式予行
- 17日(金) PTA三役会、常任委員会
- 23日(木) 卒業式
- 24日(金) 修了式、離任式
- 27日(月) 春休み（～4月5日）

東桜島っ子の3月の重点目標

年の生活のまとめをしよう。
 ☆1年を振り返り、生活のまとめをしよう
 ☆整理整頓・そうじをしっかりとしよう。

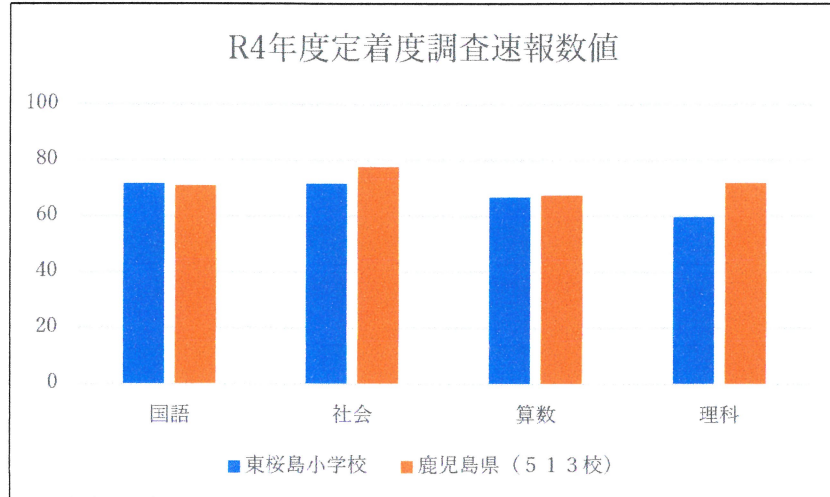
3月24日（金）離任式
保護者・地域の皆様の来校お待ちしております。

9：10～9：30

東桜島小学校 鹿児島学習定着度調査に係る結果の公表

学力調査等の実態と対策

1 令和4年度鹿児島学習定着度調査速報値〔5年生〕



| | 国語 | 社会 | 算数 | 理科 |
|------------|------|------|------|------|
| 東桜島小学校 | 71.5 | 71.4 | 66.6 | 59.5 |
| 鹿児島県(513校) | 70.9 | 77.5 | 67.4 | 71.7 |

【参考: 令和5年2月4日現在の県速報値】

2 鹿児島学習定着度調査分析(1月23日実施)

【各教科の課題・改善策】

| | 課題 | 改善策 |
|----|---|--|
| 国語 | ①【1】三 1 ローマ字「につき」小文字指定中学年 ②【1】五 1 主語を選ぶ 中学年 ③【1】六 1 修飾語 中学年 ① 【3】三 説明文 意味を考え文を選択 高学年 | ①3年生から定期的にローマ字のプリント復習を行い、練習を意識的に行わせていく。(家庭学習へ取り入れる。) ②主語を確実に取り入れた短文作りの家庭学習を毎日意識的に出す。 ③修飾語を確実に取り入れた短文づくりの家庭学習を毎日意識的に出す。 ④アまずは、相手の考えを引用したり受容したりする。イ次に、自分の考えで反論をしたり質問をしたりして、自分の考えを説明する。といった論理的な話し方や書き方をノート指導等で身につけさせていく。【高学年だが、低学年から系統的に指導を行う必要がある。】 |

| | | |
|-------|---|---|
| 社会 | ①【2】(2)資料から季節風と降水量の理解 ②【2】(4)気候と農作物の違いを説明 ③【3】(3)資料の読み取りの説明 ④【4】(3)これからの水産業について説明 ⑤【5】(3)海外生産の良さ 説明 ⑥【6】(3)製品開発の意味 | ・①や③は、図表から読み取る学習の充実をさせていきたい。 ・④や⑤は、条件に気付いて答える問題であるが、低学年のうちから、読むときに大事なところに線を引かせるなどの練習が必要である。 ・説明する力を定着させていかなければならない。 |
| 理科 | ①【2】(1)物のあたまり方 ②【3】(2)電気回路 ③【5】(1)受粉 ④【6】(4)水の温度ととける量 | ①授業の中で、予想から結果にどのようにつながるか結びつき方をグループの中で説明したり、話し合ったりする時間を設ける。 似たような問題を繰り返し解かせ、理解を深める。 ②導入や実験で、かん電池の向き・電流の向き、強さを関係づけて理解できるようにする。 また、実験後の結果を、理由をつけながら説明できるようにする。 ③基礎的な問題は、確実に定着できるようにする。 ④グラフから読み取って、考察・説明できるようにする。 |
| 算数 | 【知・技】よりも【思・判・表】の方が正答数が低い。つまり【思・判・表】に課題が見られる。 ①【1】(4)計算の説明 ・言葉と式を使って友達の考えを説明する問題である。友達の考えに基づいた説明ができていない誤答が見られた。 ②【2】(4)図形の面積の求め方 ・36-12の36と12の数の意味を理解していない誤答が見られる。 ③【4】(4)目盛の異なるグラフの読み取り ・1目盛りの大きさに着目していない。(1)の目盛りの大きさを求める問題も正答数が少なかった。折れ線グラフの傾き加減で考えている誤答が見られた。 | ①ロイロノートの提出機能を使って自分の考えを説明するだけでなく、画面に表示された友達の考えを説明する時間を設ける。 ②立式した際に、その数の意味を考えさせる。 ③2つのグラフを使った読み取り、目盛りの異なるグラフを見て答える問題を数値を使って説明させる必要がある。また、繰り返し類似問題を解かせたり学び直しをさせたりする。 |
| 児童質問紙 | ① 5(1) ・2~3時間や、5時間以上の児童がいる。 ・平日に長時間利用者がいる。 ②6(1), (2) ・平日と休日に全く使用していない割合にほとんど差はなく、家庭学習でインターネットを利用する習慣が身につけていない人が約半数いる。 | ①家庭におけるインターネット利用のため、学校での指導だけでなく、家庭と連携した取り組みが必要である。 ②低学年のうちから1日5分でもタブレットを使用した家庭学習を習慣化する。そのために、学校のタブレットを積極的に持ち帰らせる必要がある。 |

3 今後の取組事項

- ・ キーワードを引用して正しく答えさせるように、指導を行う。
- ・ 「条件」に基づいた文を作成することができるように、指導を行う。
- ・ グラフを読み取り、自分の考えを答える指導を行う。
- ・ 目盛りの読み方の指導を行う。
- ・ どの学年から出された問題かを分析して、授業で意識的に行う。
- ・ 辞書を手元に置いて、授業で使わせて、語彙を増やす指導を行う。
- ・ 根拠に基づいた考えを説明する力をつけるために、対話系統表を活用した指導を行う。